

経営比較分析表（令和4年度決算）

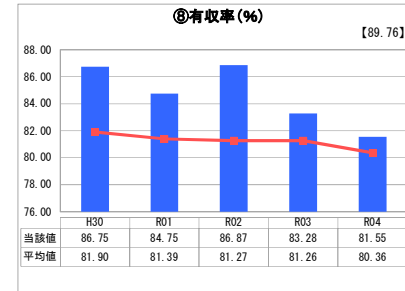
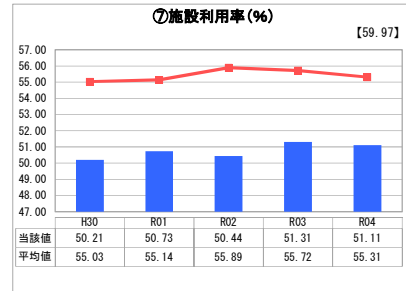
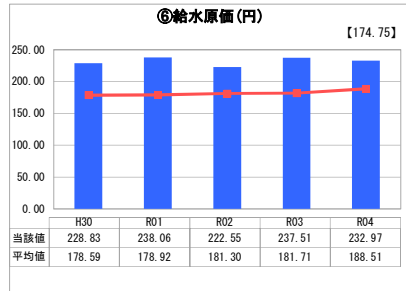
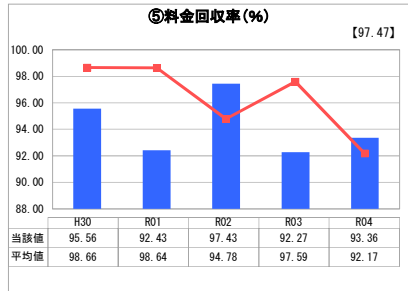
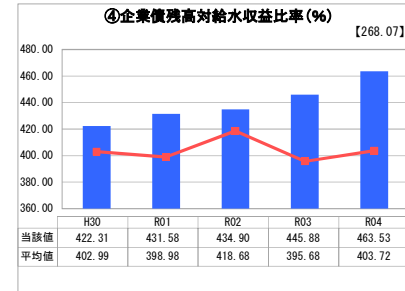
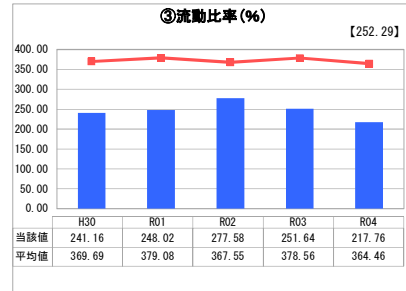
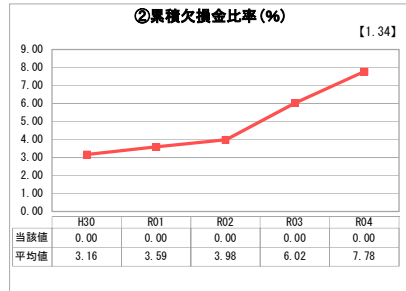
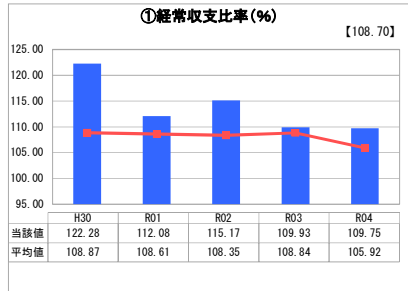
富山県 小矢都市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	66.26	64.21	3,718	

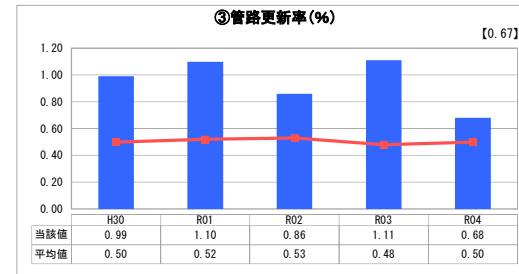
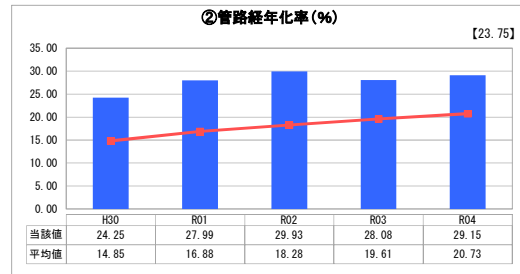
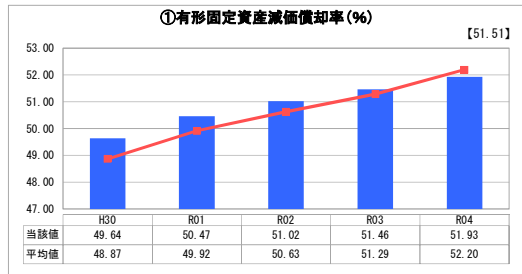
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
28,602	134.07	213.34
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
18,280	84.15	217.23

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ・人口減少や節水機器の普及に伴って、近年給水収益の減少が続いており、収益を一般会計繰入金等で補っている状態である。令和3年度に、中長期的な期間において、最適な投資規模や資金計画による経営戦略を策定した。
- ・総配水量に対して受水費や維持管理費などの費用が多いため、類似団体より給水原価が高くなっている。更なるコスト削減、業務の効率化に努める必要がある。
- ・流動比率が平均より低く、企業債残高対給水収益比率が高いのは、これまでの投資額に対し給水収益が低いためである。拡張事業や老朽管更新などの施設更新も含めた投資規模に対し、現在の料金水準が適正なものであるかを分析する必要がある。
- ・施設利用率が平均より低い傾向にあるのは、過去の計画給水人口に基づいた施設整備を行ってきたものが、近年の給水人口の減少により、平均配水量が減少しているためである。今後もこの傾向は続くことから、施設更新に際してはダウンサイジングも含めた適切な規模の投資を行う必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ・平成24年度まで、漏水対策を中心に、漏水箇所が多い地域の管路更新を行ってきた。
- ・平成25年度以降は配水池整備（平成28年度完工）により更新が鈍化した。平成29年度以降は、計画のもとに継続的に老朽管更新を行っており、管路更新率は平均より高くなっている。
- ・管路経年化率が平均より高いのは、昭和40年代の黎明期に一旦に布設された管路が、法定耐用年数を迎える時期を迎えたためであり、今後もこの傾向は続く。法定耐用年数に対し、管路更新は目標耐用年数を設定していることから、計画的に管路更新を進めていく。

全体総括

- ・人口減少や節水機器の普及による給水収益の減少の中、既存施設の維持管理を行いながら、給水原価縮小に努めてきた。水道普及率を高め、既存施設利用率を高めるとともに、企業債借入償還計画と老朽管更新に伴う減価償却費の増大に対し、令和3年度に策定した経営戦略に基づく収支計画により、今後もより一層、経営の安定化及び健全化を図ってきたい。